

# Express5800/330Mb-R、Express5800/340Ha-R ユーザーズガイド正誤表

856-122070-008-B  
2003年1月第2版

説明書名：Express5800/330Mb-R、Express5800/340Ha-R ユーザーズガイド (856-122070-001-A 初版)

【区分】A:追加 C:訂正 D:削除 E:その他

ページ	位置	区分	誤	正
ii	商標について	A		VERITAS は、米国およびその他の諸国における VERITAS Software Corporation の登録商標です。VERITAS のロゴおよび VERITAS Volume Manager は、VERITAS Software Corporation の商標です。
28	「初めて電源をONにするときのセットアップ」 3行目	C	購入後、初めて電源をONにするときは、ここに示す手順に従ってセットアップをしてください。	購入後、初めて電源をONにするときは、ここに示す手順に従ってセットアップをしてください。CD-ROMなどの媒体を使用する必要はありません。
28	「初めて電源をONにするときのセットアップ」 4行目	A		<b>重要:</b> PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページにおいて、最新の ft 制御ソフトウェアを確認し、本体に添付されている EXPRESSBUILDER および ft 制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM が古い場合には、以下の手順によるセットアップ後、Web ページ掲載のアップデート手順に従い、ft 制御ソフトウェアを更新してください。
28	「初めて電源をONにするときのセットアップ」 手順9の後	A		10. VERITAS Volume Manager の正式ライセンスキーを登録する。 添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内の <CD-ROM> ¥VXVM¥VM_2.7_W2K_USERSGUIDE.PDF 「第5章 Volume Manager の機能」マイナーな機能・ライセンスを参照しライセンスキーの置換を実施してください。 VERITAS Volume Manager の正式ライセンスキーは、Express5800/ft サーバ本体に正式ライセンスキーが記載された ID ラベルが貼り付けられています。 ライセンスキーには、「0」(数値)、「1」(数値)、「5」(数値)および「Q」(アルファベット)は利用してありません。
29	「ftサーバセットアップ」 1行目	C	EXPRESSBUILDER を使って Express5800/ft サーバをセットアップします。	EXPRESSBUILDER を使って Express5800/ft サーバをセットアップします。 <b>重要:</b> Express5800/ft サーバご購入後、初めて電源を入れられる場合には、「初めて電源をONにするときのセットアップ」を参照し、セットアップしてください。ft サーバセットアップは、再インストールする場合に実施します。

ページ	位置	区分	誤	正
29	OSのインストールについての上	A		PP・サポートサービスご購入のお客様は、再インストールを行う前に PP・サポートサービスの Web ページにおいて最新の ft 制御ソフトウェアを確認していただき、最新バージョンのソフトウェアをインストールしてください。
30	初期化の設定手順4	C	4 . 「Enable support to create FAT 32 partitions? [Y]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。	4 . 「Do you wish to enable large disk support? [Y]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
31	各種ユーティリティの自動インストールについての上のヒント(2つ目のヒント)	C	ft サーバセットアップでインストールしている場合は、2048MB 以上のパーティションサイズを作成してください。	ft サーバセットアップでインストールする場合には、自動インストールの動作のため 2048 MB のパーティションサイズが必要となります。2048MB 以上のパーティションを作成してください。
32	ftサーバセットアップの流れ 流れ図	C		後述の「P.32 ftサーバセットアップの流れ図 差換え」参照
33	Windows2000 のインストール 1行目の下	A		<b>重要:</b> 自動インストール処理の中で要求される Windows 2000 Service Pack を必ず適用してください。 その他の Windows 2000 Service Pack は適用できません。 <b>ヒント:</b> PP・サポートサービスご購入のお客様は、最新の Windows 2000 Service Pack への対応状況を PP・サポートサービス Web ページより確認いただけます。
33	Windows2000 のインストール 手順1の上	A		Windows 2000 のインストールには、以下のものがが必要です。 EXPRESSBUILDER(CD-ROM) ft 制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM 本 CD-ROM は、ft 制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり装置に添付されていない場合もあります。 (装置出荷時点で EXPRESSBUILDER に含まれるソフトウェアが最新の場合には、添付されません。) Microsoft Windows 2000 Advanced Server 日本語版(CD-ROM) Windows 2000 Service Pack(CD-ROM) ユーザーズガイド(本書) <b>重要:</b> PP・サポートサービスご購入のお客様は、最新の ft 制御ソフトウェアのリリース状況を確認していただき、最新バージョンの ft 制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM をご利用ください。
33	手順1 重要	A		LAN ケーブルはすべて取り外してください。

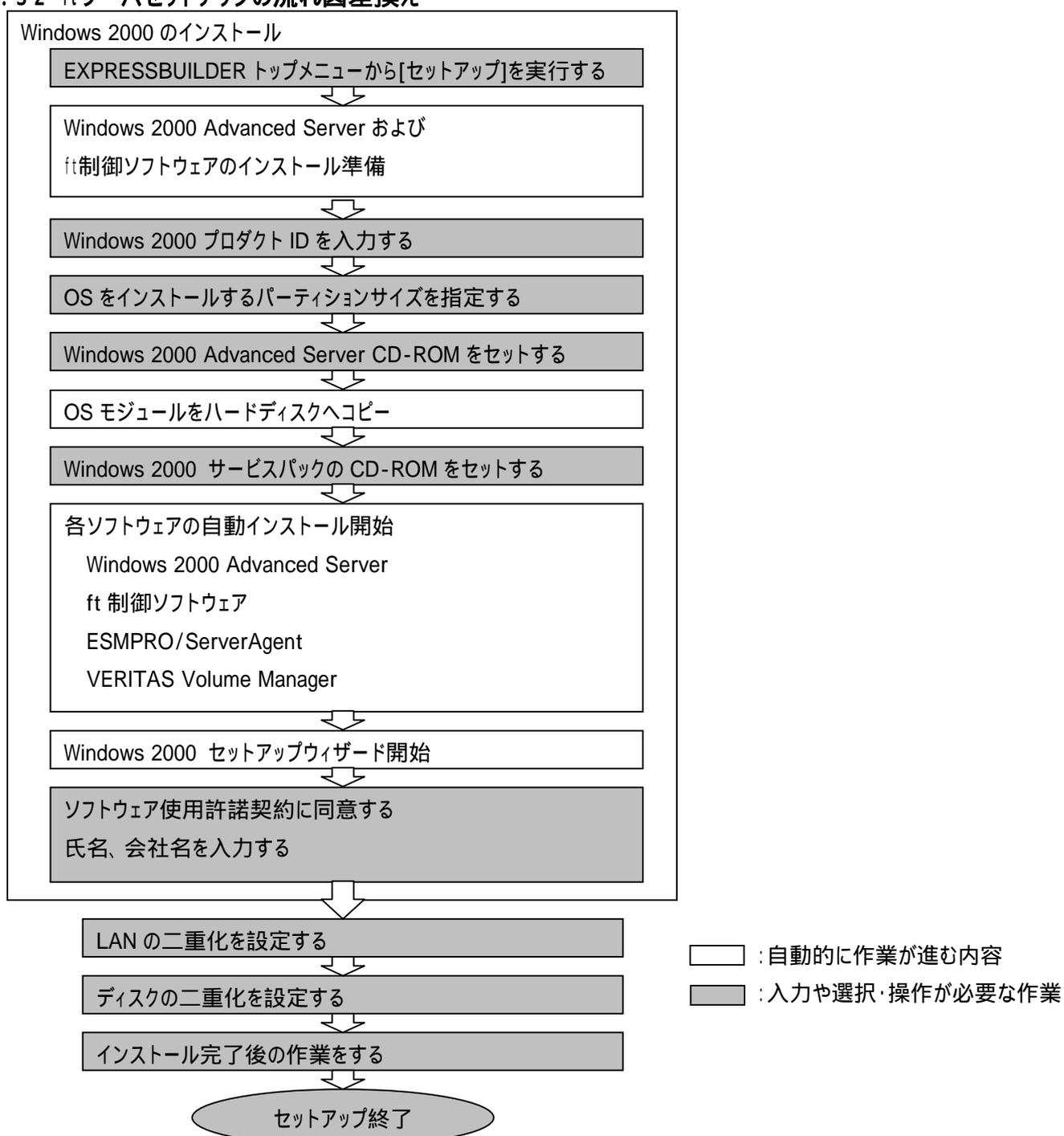
ページ	位置	区分	誤	正
34	手順10	D	インストールを完了すると[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されます。	
34	手順10 重要	C	Windows 2000 のインストール開始後から[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されるまで必ず何も操作を行わないでください。	[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されるまで、表示されるウインドウに対して操作を行わないでください。自動インストール中は、インストール進行状況をメッセージ表示するウインドウと各アプリケーションのインストールウィザードが表示されますが、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されるまで、これらのウインドウに対して操作を行わないでください。 インストール進行状況のウインドウを終了された場合には、インストールが中断され、Windows の操作が可能となりますが、各モジュールもしくは PCI ボードが正しく二重化されません。この場合、初めから Windows 2000 のインストールを実施する必要があります。 インストールを完了すると[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されます。
34	手順14	D	以上で Windows 2000 のインストールは完了です。続いて LAN とディスクの二重化を設定します。	
34	手順14 重要	C	「Express5800/ft サーバシリーズ ft 制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」がある場合は、 (中略) 「Express5800/ft サーバシリーズ ft 制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」がある場合、個別にアップデートモジュールの適用が必要となります。	「Express5800/ft サーバシリーズ ft 制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」を利用して、 (中略) 「Express5800/ft サーバシリーズ ft 制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」から個別にアップデートモジュールを適用する必要があります。
34	P. 34の最後 (ページ最下部)	A		15 . VERITAS Volume Manager の正式ライセンスキーを登録する。 添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内の < CD-ROM > ¥VXVM¥VM_2.7_W2K_USERSGUIDE.PDF 「第 5 章 Volume Manager の機能」マイナーな機能・ライセンス を参照し、ライセンスキーの置換を実施してください。 VERITAS Volume Manager の正式ライセンスキーは、Express5800/ft サーバ本体に正式ライセンスキーが記載された ID ラベルが貼り付けられています。 ライセンスキーには、「0」(数値)、「1」(数値)、「5」(数値)および「Q」(アルファベット)は利用していません。 以上で Windows2000 のインストールは完了です。続いて LAN とディスクの二重化を設定します。

ページ	位置	区分	誤	正
37	手順6	C	6.最後に[完了]をクリックしてディスクをアップグレードします。 ダイナミックにアップグレードする際、「前のWindowsを起動できない」や「強制的にマウントを解除」のメッセージが表示されますが、[はい]をクリックして、再起動してください。その場合、複数回再起動を要求された場合は、指示に従って再起動をしてください。	6.最後に[完了]をクリックしてディスクをアップグレードします。 ダイナミックにアップグレードする際、「前のWindowsを起動できない」や「強制的にマウントを解除」のメッセージが表示されますが、[はい]をクリックして、再起動してください。その場合、複数回再起動を要求された場合は、指示に従って再起動をしてください。再起動は、PCIモジュールが二重化されたことを確認後、実施してください。
43	ネットワークモニタのインストール手順5	C	5.ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、CD-ROM「Windows 2000 Advanced Server」をCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。	5.「Windows 2000 Advanced Server」もしくは「Server Pack 3」のディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、いずれの場合もCD-ROM「Windows 2000 Advanced Server」をCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。
121	*6	C	*6 N8804-001P1 100BASE-TX 増設ボードセットは、片系のPCIモジュールに最大3枚(装置全体で最大3組(6枚))の増設が可能です。	*6 N8804-001P1 100BASE-TX 接続ボードセットは、片系のPCIモジュールに最大3枚(装置全体で最大3組(6枚))の増設が可能です。
152	Disconnects OK 説明	C	*SCSI ID 14,15 は「No」に設定してください。	*SCSI ID 15 は「No」に設定してください。
152	Negotiate Wide 説明	C	*SCSI ID 14,15 は「No」に設定してください。	*SCSI ID 15 は「No」に設定してください。
152	Negotiate Sync 説明	C	*SCSI ID 14,15 は「No」に設定してください。	*SCSI ID 15 は「No」に設定してください。
152	Tagged Queuing 説明	C	*SCSI ID 14,15 は「No」に設定してください。	*SCSI ID 15 は「No」に設定してください。
184	「CPUモジュール/PCIモジュールの実装状態の変更について」	C	CPUモジュール/PCIモジュールの実装状態の変更について データビューアによりサーバ情報を参照中に、当該システムのCPUモジュールまたはPCIモジュールの構成を動的に変更した場合、データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示されます。[はい]をクリックするとデータビューアでツリーの再構築を行い、システムの構成変更がデータビューア上に反映されます。[いいえ]をクリックすると、データビューアのツリーの再構築は行われません。その場合、システムの構成変更が反映されないため、データビューアの情報とは現在のシステムの情報と異なる可能性があります。	CPUモジュール/PCIモジュールの実装状態の変更について データビューアによりサーバ情報を参照中に、当該システムの構成を動的に変更した場合、データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示されます。[はい]をクリックするとデータビューアでツリーの再構築を行い、システムの構成変更がデータビューア上に反映されます。[いいえ]をクリックすると、データビューアのツリーの再構築は行われません。その場合、システムの構成変更が反映されないため、データビューアの情報とは現在のシステムの情報と異なる可能性があります。 Express5800/330Mb-R 及び Express5800/340Ha-Rでは、構成の変更がシステム情報に反映されるまでに約2分間かかるため、ツリーの再構築を促すメッセージが表示されたのち、2分以上待ってからツリーの再構築を行ってください。 2分経過せずにツリーを再構築した場合、現在のシステムの情報と異なる可能性があります。その場合は再度データビューアの再構築を行ってください。

ページ	位置	区分	誤	正
184	「CPU モジュール /PCI モジュールの実装状態の変更について」の下部 (ページ最下部)	A		CPU モジュールと PCI モジュールの監視について  Express5800/330Mb-R 及び Express5800/340Ha-R では、CPU モジュールと PCI モジュールで何らかの異常を検出したときのアラート通報は行われません。また、ESMPRO/ServerManager のデータビューアの [システム環境]に、[温度]、[ファン]、[電圧]、[電源]のツリーを表示しません。
184	「CPU モジュール /PCI モジュールの実装状態の変更について」の下部 (ページ最下部)	A		状態更新アラートの抑止について  当該システムの構成を動的に変更した場合、約 2 分間は状態遷移が頻発するために状態更新アラートの抑止を行っています。
240	P. 240の最後 (ページ最下部)	A		後述の「P.240 追加項目」参照
265	P. 265の最後 (ページ最下部)	A		後述の「P.265 追加項目」参照
285	? <u>システムイベントログに sraq160のログが記録される</u>	C	システム立ち上げ時、または PCI モジュールの組み込み時にイベントログに SCSI コントローラが連続して複数個登録されていることがあります。	システム立ち上げ時、または PCI モジュールの組み込み時にイベントログに SCSI コントローラエラーが連続して複数個登録されていることがあります。
286	? <u>アプリケーションイベントログに vmperf 関連のログが記録される</u>	C	「ソース:vmperf ID :11 説明 : (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:」  「ソース:vmperf ID :12 説明 : (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:」	「ソース:vmperf ID :11 説明 : イベントID (11) (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:」  「ソース:vmperf ID :12 説明 : イベントID (12) (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージ DLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:」

ページ	位置	区分	誤	正
286	「EXPRESSBUILDER について」の上部	A		<p>? 「ハードウェアの取り外し」ダイアログに “Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video” が表示される。</p> <p>システムトレイ上の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックすると二つの “Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video” が表示されます。これらの取り外しを行わないでください。これらを取り外した場合には、接続されている PCI モジュールが強制的に切り離され、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。</p>

### P. 32 ftサーバセットアップの流れ図差換え



## P.240 追加項目

### アラート (Agent から Manager への通報) ベースでの ServerManager の表示更新

マネージャ側の状態表示をよりリアルタイムにする機能がサポートされました。当該機能はデフォルトでは OFF です。ON するためには以下の設定方法を参照してください。

オペレーションウィンドウ上のサーバアイコンやデータビューアの状態色の更新は、デフォルトで1分間隔のポーリングによって行われているため、エージェントの状態が変化してからマネージャがそれを認識するまでに若干のタイムラグが発生します。

状態更新アラート機能を使うことによって、マネージャが認識するまでのタイムラグを減らすことができます。

状態更新アラート機能は、エージェントの状態が変化したときにエージェントから状態更新用のアラートをマネージャに送信し、対応するサーバアイコンの状態色やデータビューアの表示情報を更新する機能です。

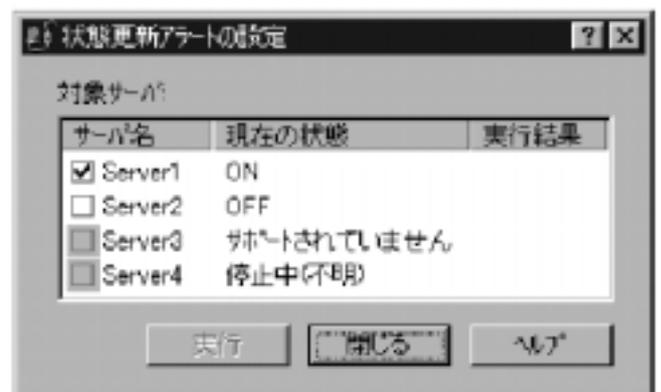
#### 設定方法

1. スタートメニューから[プログラム] - [ESMPRO]の順にポイントし、[ServerManager 動作設定]をクリックする。
2. [アラートベースの状態更新を行う]をチェックする。
3. [ServerAgent の設定]をクリックする。



[ServerManager 動作設定] ダイアログボックス

4. エージェント側で状態変化を認識した場合に、マネージャ側に対して状態更新アラートの送信を行うサーバのチェックボックスにチェックする。  
[実行]を押すと設定変更に対する結果が実行結果に表示されます。



[状態更新アラートの設定] ダイアログボックス

## ftMemory RAM Disk

ftMemory RAM Disk は、ft サーバ上で稼働するアプリケーションの性能を改善し、またその利便性を拡大するための ft サーバ専用のオプションソフトウェアです。ft サーバ上のメインメモリを RAM ディスクとして利用しデータを格納、10～256MB の単一のパーティションディスクとして認識することが可能です。

オプションソフトウェア「ftMemory RAM Disk」の購入が別途必要となります。

### アプリケーション性能/利便性の向上

- ・ ftMemory RAM Disk の利用により、ディスク I/O より高速にアプリケーションと ftMemory RAM Disk 間でのデータの READ/WRITE が行えます。
- ・ アプリケーションが頻繁にアクセス・更新する、一時作業ファイルや、一時的に物理メディアにも格納する Web サーバデータなどを ftMemory RAM Disk に格納することによりアプリケーション性能の高速化が図れます。
- ・ アプリケーション以外にも ftMemory RAM Disk に Oracle のログファイルを格納することによりデータベース処理の高速化を実現します。
- ・ 電源断を伴わない Windows の再起動であれば、メインメモリ内のデータは保持したままです。システム再起動後にすぐに、アプリケーションから ftMemory RAM Disk の利用が可能です。アプリケーション開始に必要なアプリケーション状態管理ファイルを ftMemory RAM Disk に格納することにより、サーバ起動時のアプリケーション再起動の高速化が図れます。

### 耐障害性メモリとして、障害発生時の速やかな業務復旧

- ・ ftMemory RAM Disk は ft サーバがもつ冗長化機能を利用していますので CPU モジュール内のメインメモリにハードウェア障害発生した場合にも、もう一方の CPU モジュールのメモリデータは失われません。
- ・ 万一の Windows の STOP エラーなどによる OS リブートの際もメインメモリ上の ftMemory RAM Disk のデータは失われませんので ft サーバの提供する高速リブート、オンラインダンプ機能を合わせて ftMemory RAM Disk が持つ稼働中のデータを復旧することが可能です。これにより、サーバのダウンタイムを最小限にとどめることが可能です。